

令和6年度

松茂小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○自ら考え、判断し、表現できる子どもの育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員

委員

校長： 教頭： 教務： 人権主： 特支コ： 1年主： 3年： 4年主： 6年主： 特支：

校長

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が身につけている児童が多い。 ●基礎的・基本的な知識・技能の活用ができていない児童が多い。 ●「書く」スキルが身につけていない児童が多い。	・単元のまとめや授業の振り返りの際に、学習内容の練習問題を自力で解くことができる。 ・学習で習得した知識を言語活動の中で正しく使ったり活用したりすることができる。	・何が書かれているかを的確に捉えさせるために、教科書や問題にアンダーライン等を入れさせる。 ・単元学習後も定期的に復習プリントやICT等で定着を図ったり、学習した漢字は必ず書かせることを徹底したりする。 ・考えたことや伝えたいことを「書く」機会を多く設けるとともに、書いた文や文章を推敲する活動を取り入れる。	・それぞれの教科における知識等の習得をより徹底させる。 ・引き続き、「書く」活動を多く取り入れていく。	・問題の意味を的確に捉えさせる手立は有効であったが、その必要性を感じていない児童がいる。 ・学習の定着を図る手立はとれたが、定着率には個人差がある。 ・意識して「書く」機会を設けることで、一生懸命書こうとする児童が増えたが、読み返すことをしない児童が多い。友達同士での推敲活動は効果があった。	今年度の取り組みを継続するとともに、学習の定着を図るために習熟度別での手立てをとったり、「書く」力を育てるための推敲活動に力を入れたりする。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○理由を明らかにして、自分の意見や考えを表現することができる。 ○多様な学習形態を取り入れることで、自分の考えを表現したり、学びを深めたりすることができる児童が増えた。 ●自分の思いや考えを「書く」ことへの苦手意識が強い児童がいる。	・既習内容を活用して自力解決し、互いの考えを聴き合いながら学びを深めることができる。 ・習得、活用、探求の各場面において、適切な言語活動により表現することができる。	・思考や話し合いの場でのホワイトボードやICT等の教具の効果的な活用事例について、教師間で情報交換する。 ・個に応じた手立てをとりながら、児童自身の書きたいという思いを引き出せるような課題設定を工夫する。 ・自力解決の時間を確保したうえで、多様な学習形態を取り入れ、自分の思いや考えを表現する活動を設定する。	・引き続き、ワークシートの工夫など個に応じた手立てをとりながら、課題設定の工夫に力を入れる。	・教具の効果的な活用事例について、教師間で情報交換をすることができた。 ・個に応じた手立てをとりながら、課題設定を工夫することができた。 ・自力解決には個人差があるが、多様な学習形態を取り入れたことで学びが深まり、児童自身もそれを実感していた。	今年度の取り組みを継続するとともに、話し合いが活発に行えるよう、学年に応じた話し合いのモデルを提示することで、より学びを深められるようにする。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に真面目に取り組んだり、興味のあることに意欲的に取り組んだりすることができる。 ●自ら進んで課題を見つけ、最後まで粘り強く取り組むことができる児童とそうでない児童との差が大きい。	・めあての達成に向けて児童自身が自分に合った学習課題を選択することができる。(調整力) ・学習に目的をもって取り組んだり、最後まで粘り強く取り組んだりすることができる。	・ワークシートの工夫や習熟度別の課題プリント等を活用して目指すゴールを変えることで、主体的な取り組みを促す。 ・めあての提示の仕方を工夫するとともに、振り返りの視点を児童に示して何を学んだのかを振り返らせ、次の活動につなげられるようにする。 ・課題やめあてを自分で設定し、工夫して学習しているノートを紹介する等して、自主学習の充実を図る。	・主体的な取り組みを促す活動を行っていくとともに、めあてを意識した振り返りができるように声かけをする。 ・自主学習の充実を図るために、全校児童に自主学習ノートを紹介する機会を設ける。	・様々な教科や活動で、学習課題を選択させることができた。 ・振り返りの仕方を工夫することで、めあてを意識した振り返りができる児童が増えてきた。 ・自主学習の取り組み方の参考にできるよう、他学年児童が取り組んだ自主学習ノートに触れる機会を設けることができた。	今年度の取り組みを継続するとともに、成功体験を味わわせたり、児童のやる気を引き出すような声かけを行ったりすることで、より粘り強く学習に取り組むことができるようにする。

令和6年度 学力向上ロードマップ

